

美女音楽劇「人魚姫」

作：寺山修司
演出：藤田俊太郎
美術・衣裳・宣伝美術：宇野亞喜良
作曲・音楽監督：笠松泰洋
振付：新海絵理子

PROJECT NYX プロジェクト・ニクスHP
http://www.project-nyx.com



●ふじた・しゅんたろう

1980年生まれ。秋田市土崎出身。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科在学中の2004年、ニナガワ・スタジオに入る。当初俳優として活動したのち、2005年以降2015年現在まで蜷川幸雄作品に演出助手として関わっている。2011年、「喜劇一幕・虹艶聖夜」で作・演出を手掛ける。2012年彩の国さいたま芸術劇場さいたまネクス・シアター「ザ・ファクトリー-2(話してくれ、雨のように……)」の演出担当。絵本ロックバンド「虹艶Bunny」としてライブ活動展開中。2014年1月～2月「ミュージカルThe Beautiful Game」(新国立劇場小劇場)演出。2015年、第22回読売演劇大賞杉村春子賞 優秀演出家賞受賞。
HP http://www.shuntarofujita.com

「かけはし」をお読みになっている皆様。初めまして。演劇、お芝居の世界で演出という仕事をしています。藤田俊太郎です。今年2015年秋に演出する寺山修司音楽劇【人魚姫】の稽古をしている東京の稽古場の片隅でこの文章を書いています。アンデルセンの童話を底本に寺山さん独自の視点で描かれた作品。私はこの作品を演出するにあたり【人魚姫】の住む海を遠い異国の海ではなく、寺

山さんが生まれた東北地方の風土、荒々しい東北の海に見立てて台本を読み解きました。農業や、人、稲穂、食に繋がる情景。海岸からの風景。なくなったのではなく、海の底でまだ生き続けている美しい東北地方の祝祭。それはまるで藤田嗣治さんの傑作絵画【秋田の行事】のような賑わいの時間。はたまた舞踏家土方巽さんをモデルに農村が劇場になったかのように撮影された細江英公さんの写真集【鎌鼬】のような劇的な瞬間。だから稽古場には西馬音内の盆踊りの編み笠や、青森のねぶた、竿燈まつりの提灯などから発想した祝祭小

道具の断片がたくさんあり、歌は民謡、踊りは秋田の盆踊りの練習をしています。日々北へ東北へ、秋田へと想いを馳せています。秋田から上京して15年。実家から秋田の米を途切れることなく両親に送ってもらい、時には新米を稽古場で炊いてふるまっています。たくさん炊いてもあつという間になくなりません。いぶりがつこと共に、どこかの稽古場でも誰もが秋田の米の美味しさに舌鼓を打ち、感動しています。稽古場の皆さんの笑顔を感じながら同時に思うことがあります。「故郷秋田で、秋田の米を秋田の水で食材でつくった料理が一番美味しいな」と。もちろん東京で食べる秋田の米も最高に美味しいのですが、秋田で食べる時に格別の味がします。秋田で秋田の食材を、米を食べる、そんな特別な体験をたくさんの方ができたらいいなと稽古場の俳優やスタッフの笑顔を見ながら思うのです。

最近、東京の劇場にいと僕が秋田出身ということを知っていて、「東北地方から日帰りでミュージカルを観劇に来ています」と声を掛けられることが増えました。数多くある東京の劇場も地方のお客様に支えられているのだなと実感します。演劇は上演されるその瞬間、その場所しか体験できない表現だと思っています。今年2月、第22回読売演劇大賞に受賞者として参加しました。演劇の賞を受賞できるのは初体験ですし、初めてスーツを作りました。ブランドは【TAAKK(ターク)】デザイナーは1982年生まれ秋田市将軍野出身の森川拓野さん。長年のイッセイ・ミヤケパリコレクション企画デザインを経て独立。またいつも髪を切ってくれているのは1982年生まれ男鹿市出身の鈴木景子さん。東京下北沢の美容院ROSSO(ロソ)に勤務する美容師です。森川さんも鈴木さんも尊敬すべき10代からの大事な友人で、秋田への愛に溢れた方々。東京に来てからも自然と秋田の繋がりを大事にしたいなと思っています。

あきたの風土と演劇の「かけはし」になる未来を思い描いて



演出家

藤田 俊太郎

最近、東京の劇場にいと僕が秋田出身ということを知っていて、「東北地方から日帰りでミュージカルを観劇に来ています」と声を掛けられることが増えました。数多くある東京の劇場も地方のお客様に支えられているのだなと実感します。演劇は上演されるその瞬間、その場所しか体験できない表現だと思っています。今年2月、第22回読売演劇大賞に受賞者として参加しました。演劇の賞を受賞できるのは初体験ですし、初めてスーツを作りました。ブランドは【TAAKK(ターク)】デザイナーは1982年生まれ秋田市将軍野出身の森川拓野さん。長年のイッセイ・ミヤケパリコレクション企画デザインを経て独立。またいつも髪を切ってくれているのは1982年生まれ男鹿市出身の鈴木景子さん。東京下北沢の美容院ROSSO(ロソ)に勤務する美容師です。森川さんも鈴木さんも尊敬すべき10代からの大事な友人で、秋田への愛に溢れた方々。東京に来てからも自然と秋田の繋がりを大事にしたいなと思っています。

最近、東京の劇場にいと僕が秋田出身ということを知っていて、「東北地方から日帰りでミュージカルを観劇に来ています」と声を掛けられることが増えました。数多くある東京の劇場も地方のお客様に支えられているのだなと実感します。演劇は上演されるその瞬間、その場所しか体験できない表現だと思っています。今年2月、第22回読売演劇大賞に受賞者として参加しました。演劇の賞を受賞できるのは初体験ですし、初めてスーツを作りました。ブランドは【TAAKK(ターク)】デザイナーは1982年生まれ秋田市将軍野出身の森川拓野さん。長年のイッセイ・ミヤケパリコレクション企画デザインを経て独立。またいつも髪を切ってくれているのは1982年生まれ男鹿市出身の鈴木景子さん。東京下北沢の美容院ROSSO(ロソ)に勤務する美容師です。森川さんも鈴木さんも尊敬すべき10代からの大事な友人で、秋田への愛に溢れた方々。東京に来てからも自然と秋田の繋がりを大事にしたいなと思っています。